

山形コロニー放課後等デイサービス シード天童【自己評価表】

山形コロニー放課後等デイサービス シードでは、事業所が提供するサービスの質について、評価・点検をしています。指定基準を満たしたうえで、より良いサービス提供を目指すとともに、自己評価を公表することで、地域のみなさまに安心してご利用いただく一助となるためのものです。
なお、評価基準は、厚生労働省が定める「放課後等デイサービスガイドライン」をもとに独自の基準を設けています。

○：おおむね良好といえる

▲：より良くしていきたい

×：改善が必要

チェック項目		保護者向けアンケートによるご意見等	自己評価	改善目標・工夫している点など
環境・体制整備	① 利用定員が指導訓練室等スペースとの関係が適切であるか		○	・活動する利用児が増えたことで、令和4年4月1日より、天童市東長岡に従たる事業所を開設しました。主に、小学生高学年、中高生が利用しており、活動場所が2拠点になることで、利用児の活動スペースが保たれ、中高生も集中した活動ができるようになっています。
	② 職員の配置数は適切であるか		○	・当事業所は、活動場所が2拠点になつても適切な人員配置をしております。
	③ 事業所の設備等について、バリアフリー化の配慮が適切になされているか	・入口がバリアフリーとは言えない。	○	・玄関の階段を一部修繕し、スロープを設置しております。使い勝手が良いとは言えませんが、すべての方がご利用できるよう、施設内の段差は、合理的な配慮を持つて安全な体制を整えています。
	④ 生活空間は、清潔で心地よく過ごせる環境になっているか		○	・毎日の活動が気持ちよい空間で過ごせるよう、定期的に換気をし、活動前後は清掃・消毒を行い、安心して利用できる清潔な環境作りを行っています。
業務改善	⑤ 業務改善を進めるためのPDCAサイクル（目標設定と振り返り）に、広く職員が参画しているか		○	・計画に沿った支援ができるよう、支援開始前と終了後にスタッフミーティングを実施し、情報の共有を図っています。特に活動後のミーティングではその日の児童の様子だけでなく支援員の関わり方などについても振り返り、PDCAサイクルの機能を生かし実践しています。
	⑥ 保護者向け評価表を活用する等によりアンケート調査を実施して保護者等の意向等を把握し、業務改善につなげているか		○	・保護者向けアンケート結果の評価・ご意見を参考にしながら、より良いサービスに努めます。
	⑦ この自己評価の結果を、事業所の会報やホームページ等で公開しているか		○	・保護者の方からのアンケート結果、自己評価表をホームページにて公開しています。今後も、ご意見をいただきながら継続していきます。
	⑧ 第三者による外部評価を行い、調査結果を業務改善につなげているか		○	・第三者の指導等を活かし、適切な業務管理と法令遵守に努めています。 ・法人全体でより良い事業運営のために、内部監査を実施しています。
	⑨ 職員の資質向上を行うために、研修の機会を確保しているか		○	・研修計画に基づくOJT、OFFJT等の必要な研修機会を確保しています。放課後等デイサービスは、発達を支援する上で、家庭、学校に次ぐ第三の場として重要な役割であることを受け止め、将来地域社会で生活する力の向上のために必要な訓練を利用児一人ひとりにあわせ、課題を整理し、支援にあたれるよう、職員の資質、能力の向上に努めています。
適切な支援の提供	⑩ アセスメントを適切に行い、子どもと保護者のニーズや課題等捉えた放課後等デイサービス計画を作成しているか		○	・保護者や利用児と対話し、学校や関係機関との連携により、利用されている方の課題やニーズを丁寧に確認し計画を立てています。スマールステップで目標が一つ一つ達成でき、「できた」という喜びを感じられるよう意識したプランを大切にしています。
	⑪ 子どもの適応行動の状況を図るために、標準化されたアセスメントツールを使用しているか		○	・利用児の状況を把握し、ニーズを導き出すために、利用児や保護者の希望や意見を十分に聞き、丁寧に課題を整理しています。利用開始時のアセスメントは標準化されたツールを使用しアセスメントを生かした取り組みを行っておりまます。また、就職や進学に向けて進路を決定していく時期の児童に対して、当事業所の特色ある支援に合うアセスメントのツールを検討し、より効果的な支援の強化を目指しています。
	⑫ 放課後等デイサービス計画に沿った支援が行われているか		○	・計画を共有し、目的を持った活動を企画し提供しています。利用児一人ひとりのニーズに応じた支援を行うために、職員間で個別のケースを検討し、職員が共通認識をもって一貫したサービスの提供ができるように、計画を作成し支援を行っています。
	⑬ 活動プログラムの立案をチームで行っているか		○	・支援者ミーティングの中で、個別支援計画に基づき、意向に沿ったプログラムを提供できるように考えています。
	⑭ 活動プログラムは、個々の計画に応じた工夫がされているか	・活動時間が短い	○	・個々の課題や発達段階に応じ、活動プログラムを日々工夫しながら設定しています。 ・17時30分までのサービス提供時間内での活動となっており、個々の学校や家庭での状況に応じた支援を行っておりまます。 ・将来を見据え、生活スキルを高める機会や、社会性やコミュニケーション能力を広げる経験を提供し、チャレンジできたことを認め、確認していきます。
	⑮ 平日、休日、長期休暇に応じて、課題をきめ細やかに設定して支援しているか		○	・日々のミーティングの中で、活動内容や支援内容、課題等を考え検討しながら、サービスを提供しています。長期休暇期間には、普段できないような経験や活動の機会や施設外での体験活動を提供したいと考え、計画を設定しています。
	⑯ 子どもの状況に応じて、個別活動と集団活動を適宜組み合わせて放課後等デイサービス計画を作成しているか		○	・子どもの現状や課題を整理し、個別活動やグループ活動、全体活動を組み合わせ、目的をもって計画を作成しています。
	⑰ 支援開始前には職員間で必ず打合せをし、その日行われる支援の内容や役割分担について確認しているか		○	・1日ごとの支援予定表を作成しています。支援者は、当日の役割分担、支援内容、送迎ルート、時間設定を確認し、打ち合わせの中で個々の近況を確認しています。誰が見ても動きがわかるように管理しています。
	⑱ 支援終了後には、職員間で必ず打合せをし、その日行われた支援の振り返りを行い、気付いた点等を共有しているか		○	・支援終了後は、支援者間で振り返りを行い、当日の活動状況の中での気づき、情報の共有、課題等の話し合いをしています。意見交換することで、より良い対応と支援者が同じ方向を見て支援することができます。
	⑲ 日々の支援に関して正しく記録を取ることを徹底し、支援の検証・改善につなげているか		○	・記録は、第三者が見た時にも様子が把握できるよう意識しながら記録しています。利用者一人ひとりの変化や状態を把握していくとともに、支援者自身が支援内容を振り返り、さらなる支援スキルの向上にも繋げるようにしています。
⑳ 定期的にモニタリングを行い、放課後等デイサービス計画の見直しの必要性を判断しているか			○	・6か月以内に一度を基本としつつ、必要に応じ適宜モニタリングを実施しています。支援計画の見直しや目標の再設定など本人やご家族の意向を確認しながら、適宜計画内容を変更しています。
	㉑ ガイドラインの総則の基本活動を複数組み合わせて支援を行っているか		○	・「できた」「わかった」という成功体験の蓄積と、自分らしく生きるために生活スキルの向上を目指します。社会の中で必要なルール学習を軸に、たくさんの体験の機会を提供できるように努めます。
㉒ 障害児相談支援事業所のサービス担当者会議にその子どもの状況に精通した最もふさわしい者が参画しているか			○	・主に児童発達支援管理責任者が参加しています。児童発達支援管理責任者に加え、必要に応じて直接処遇職員も参加することがあります。

山形コロニー放課後等デイサービス シード天童【自己評価表】

山形コロニー放課後等デイサービス シードでは、事業所が提供するサービスの質について、評価・点検をしています。指定基準を満たしたうえで、より良いサービス提供を目指すとともに、自己評価を公表することで、地域のみなさまに安心してご利用いただく一助となるためのものです。
なお、評価基準は、厚生労働省が定める「放課後等デイサービスガイドライン」をもとに独自の基準を設けています。

○：おおむね良好といえる

▲：より良くしていきたい

×：改善が必要

チェック項目		保護者向けアンケートによるご意見等	自己評価	改善目標・工夫している点など
関係機関や保護者との連携	㉓ 学校との情報共有（年間計画・行事予定等の交換、子どもの下校時刻の確認等）、連絡調整（送迎時の対応、トラブル発生時の連絡）を適切に行っているか		○	<ul style="list-style-type: none"> ・年間予定表や月間予定表、時間割表等は保護者経由でいただいております。また、急な変更や時間の変更などは、日常的に保護者の方と予定の確認を行うことで混乱はありません。学校との情報共有は、十分な連携・協力体制を調整することが困難な場合があります。今後も学校側の理解を高め、信頼関係の下で連携を図るための努力を続けていきます。 ・トラブル等があった際に、連絡先をしっかり確保するよう、緊急連絡先の把握も行っています。
	㉔ 医療的ケアが必要な子どもを受け入れる場合は、子どもの主治医等と連絡体制を整えているか		○	<ul style="list-style-type: none"> ・医療的ケアを要する児童の受け入れ体制を持っています。 ・医療的ケアを必要としない児童でも、必要に応じて主治医等との連携を図り、支援しています。
	㉕ 子どもが他の放課後等デイサービスを利用している場合、放課後等デイサービス間で情報共有と相互理解に努めているか		○	<ul style="list-style-type: none"> ・相談事業所と連携しながら、他の事業所と支援の内容を確認し、情報交換を行っています。必要な時には十分な連携を図る体制作りを作っています。
	㉖ 学校を卒業し、放課後等デイサービス事業所から障害福祉サービス事業所等へ移行する場合、それまでの支援内容等の情報を提供する等しているか		○	<ul style="list-style-type: none"> ・当法人は、就労支援が主たる事業ですので、将来の就労を見据えた繋がりのある療育を行っています。卒業後に障害福祉サービス事業所を利用する場合は、関係者によるサービス担当者会議を開催し、これまでの支援内容や情報についてお知らせしています。また、卒業後障害福祉サービスの利用など進路選択の機会として施設見学や体験なども実施しています。
	㉗ 児童発達支援センターや発達障害者支援センター等の専門機関と連携し、助言や研修を受けているか		○	<ul style="list-style-type: none"> ・専門機関等の研修には積極的に参加しています。課題や問題意識をもち、必要な時は、専門医から助言をいただけるよう、連携していきたいと考えています。
	㉘ 地域の方々との交流や、地域の中で活動する機会があるか		▲	<ul style="list-style-type: none"> ・地域の方々との交流は、例年、春の避難訓練や、秋の芋煮会で交流する機会を作っていましたが、社会的な事情もあり今年度も開催できませんでした。しかし、地域の中での清掃活動や市内の事業所へ販売体験に伺うなど様々な体験が出来る機会を提供してきました。また、畠で利用児と育てた収穫物を近隣の住民の皆様にお配りすることで、互いの顔の見える関係を深める契機と出来ました。
	㉙ (地域自立支援) 協議会等へ積極的に参加しているか		▲	<ul style="list-style-type: none"> ・天童市の自立支援協議会は、専門部会として相談支援部会が立ち上がっています。児童発達支援・放課後等デイサービス事業所は連絡会として天童市の事業所が集まる機会があります。今後、地域の事業所が参加できる専門部会の必要性を検討し、体制作りが進んでいくように働きかけていきたいと思います。
	㉚ 日頃から子どもの状況を保護者と伝え合い、子どもの発達の状況や課題について共通理解をもっているか		○	<ul style="list-style-type: none"> ・「連絡帳」を活用していますが、できるだけ対面して、保護者の方に活動の様子をお知らせし、家庭や学校での取り組みや課題についての把握にも努めています。
	㉛ 保護者の対応力の向上を図る観点から、保護者に対してペアレン特レーニング等の支援を行っているか		○	<ul style="list-style-type: none"> ・保護者向けペアレン特レーニング等の特別な研修会は実施しておりません。日々の活動報告や保護者との連携の中で、相談があった場合には、児童への関わり方のポイントやアドバイスをお伝えできるようにしています。また、全職員がそのポイント等を伝えるために、職員研修の充実を図りました。
保護者への説明責任等	㉜ 支援の内容、利用者負担等について丁寧な説明を行っているか		○	<ul style="list-style-type: none"> ・利用契約の際に説明しています。運営規定、重要事項説明書等に変更がある場合、隨時説明し、同意をいただいております。
	㉝ 保護者に対して面談や、子育て・将来のことに関する助言等の支援が行われているか	・高学年になるので、中学のことについて相談したい。	○	<ul style="list-style-type: none"> ・子供の発達のこと、学校での課題や将来のこと等、希望や不安の相談に応じ、必要な情報提供や助言を行っています。また、進級、進学するうえでの心配事など保護者に寄り添い、助言し支援していきます。
	㉞ 児童、保護者が一緒に活動できる機会の提供により、活動している利用児同士の交流の機会や、保護者同士の関係づくり等が提供されているか		▲	<ul style="list-style-type: none"> ・子供の成長を感じられる活動への親子の参加や子どもの今後の成長につながる情報について子どもと一緒に学ぶ機会の充実を図っていきたいと思います。その中で意見交換等ができるような企画にしていきたいと思います。
	㉟ 子どもや保護者からの苦情について、対応の体制を整備するとともに、子どもや保護者に周知し、苦情があった場合に迅速かつ適切に対応しているか		○	<ul style="list-style-type: none"> ・玄関に意見箱を設置しております。苦情受付担当者や苦情解決責任者を配置し、苦情解決委員会の体制を取り、迅速に対応できるようにしています。第三者委員の直接受付の体制も整備し、2回実施しました。保護者には、掲示して周知しています。
	㉟ 定期的に会報を発行し、活動内容や行事予定、連絡体制等の情報を子どもや保護者に対して発信しているか		○	<ul style="list-style-type: none"> ・3ヶ月に一回、シードだよりを発行しています。山形県コロニー協会ホームページにも記事を更新し、シードの活動の様子をお知らせしています。
	㉟ 個人情報に十分注意しているか		○	<ul style="list-style-type: none"> ・個人情報は、保護規定に沿って安全に管理しています。管理体制を強化するため、職員の教育や意識を高める取り組みを行い、適切に管理していきます。今年度は、個人情報の取り扱いについて適正に管理されるようコンサルを受けながら、対応してきました。
	㉟ 残障のある子どもや保護者との意思の疎通や情報伝達のための配慮をしているか		○	<ul style="list-style-type: none"> ・情報伝達については、個々にあった伝え方を大切にしています。必要に応じて、言葉以外のツールも活用し、情報を伝えられるよう配慮しています。
	㉟ 事業所の行事に地域住民を招待する等、地域に開かれた事業運営を図っているか		▲	<ul style="list-style-type: none"> ・地域連携を重視し運営を行っています。社会的な変化に合わせ、畠で利用児と育てた収穫物を近隣の住民の皆様にお配りすることや敷地内で児童の販売体験を行った際に広報するなどこれまでと異なる形での機会を模索してきました。
	㉟ 緊急時の対応や防犯、感染症などの対応についての手引きを策定し、保護者に周知・説明されているか		○	<ul style="list-style-type: none"> ・必要なマニュアルについては、法人で策定し、業務上徹底した管理に努めています。なお、事業所独自の緊急時の対応について、明確に提示するように努めています。 ・保護者にマニュアルは配布していませんが、感染症の予防について、わかりやすく説明されたチラシ等を渡し説明しています。
非常時	㉟ 非常災害の発生に備え、定期的に避難、救出、その他必要な訓練が行われているか		○	<ul style="list-style-type: none"> ・法定訓練として、年2回の避難訓練を行っています。今年度は、東長岡に活動場所が増えたことで、活動場所毎での訓練を行っています。 ・大きな災害があった場合は、近くの小学校や公民館が避難場所となります。職員の誘導で避難は行われます。
	㉟ 虐待を防止するため、職員の研修機会を確保する等、適切な対応をしているか		○	<ul style="list-style-type: none"> ・年1回は、職員研修の機会をもって、虐待防止の研修を開催しています。日常活動でも、虐待の有無について確認し、指導管理を徹底しています。

山形コロニー放課後等デイサービス シード天童【自己評価表】

山形コロニー放課後等デイサービス シードでは、事業所が提供するサービスの質について、評価・点検をしています。指定基準を満たしたうえで、より良いサービス提供を目指すとともに、自己評価を公表することで、地域のみなさまに安心してご利用いただく一助となるためのものです。なお、評価基準は、厚生労働省が定める「放課後等デイサービスガイドライン」をもとに独自の基準を設けています。

○：おおむね良好といえる

▲：より良くしていきたい

×：改善が必要

チェック項目		保護者向けアンケートによるご意見等	自己評価	改善目標・工夫している点など
等の対応	④③ どのような場合にやむを得ず身体拘束を行うかについて、組織的に決定し、子どもや保護者に事前に十分に説明し了解を得た上で、放課後等デイサービス計画に記載しているか		○	・強度行動障害児等、活動する中で安全管理を必要とするケースは、個別支援計画書に、具体的な対応を盛り込み説明し同意を得ています。やむを得ず対応をする時には、利用児の安全確保を一番に考え、支援体制を整えています。また、身体拘束をする機会がない支援のありかたについて、十分に検討しています。 ・これまで拘束等を行うことがなかった点は良いことですが、職員一人ひとりが意識を高め、利用児の安全管理に努めています。
	④④ 食物アレルギーのある子どもについて、医師指示書に基づく対応がされているか		○	・食物アレルギーの有無については、利用開始時に必ず確認しています。対象児は、必要に応じて医師の診断書を提出していただき、提供するおやつなどの成分表を十分に確認し、リスク管理を行っています。
	④⑤ ヒヤリハット事例集を作成して事業所内で共有しているか		○	・日々のスタッフミーティングにて「ヒヤリ・ハット」を確認しています。支援者間で、リスクを共有し、対応について具体的に検討し改善していきます。リスクによっては、どうしていくかを組織的に吸い上げ改善する仕組みができます。
満足度	④⑥ 子どもは通所を楽しみにしているか	・毎週とても楽しみにしています。 ・学童で上手くコミュニケーションを取れない所もあり通所させる必要性は感じている。	○	・小学生から高校生まで幅の広い支援にあたるため、小学生には、理解力を伸ばし、気持ちのコントロールができるような個別療育と、必要な経験ができる環境を提供し、生活能力の向上と他者を意識した遊びや順番を待つなど集団生活に適用する訓練を行っています。中高生には、コミュニケーション学習や周囲を意識した表現、「働く」を意識し、就労先で必要な基礎の力が身に着くよう、社会への旅立ちを見据えた支援を行っています。職員として、子供たちが心から参加したいと思えるよう、活動内容や環境作りをもっと充実させ、より良い支援に努めます。
	④⑦ 事業所の支援に満足しているか		○	・今年度は、利用人数が増えることで、定員を10名の2ユニット体制に変更し「シード天童ながおか」を増設しました。ゆとりある環境の中で安全に活動しています。 ・子供の成長に必要な経験ができる機会を提供し、活動内容の工夫も重要と考えます。また、利用児の成長と共に、ご家族の意向やご意見を伺いながら、一緒に悩み、相談できる事業所となるように努めています。

職員の配置状況（令和5年2月15日現在）

施設長：1名、児童発達支援管理責任者（施設長と兼任）：1名、児童発達支援管理責任者：1名
保育士：3名、児童指導員：5名

職員の資格 等（令和5年2月15日現在）

認定心理士：3名、保育士：3名、精神保健福祉士：1名、児童指導員5名
強度行動障害支援者研修終了：4名 など